

令和3年度第2回長岡京市文化財保存活用地域計画推進会議 主な意見

開催日時：令和4年3月18日（金）午後3時～午後4時30分

開催場所：長岡京市立図書館3階 大会議室

区分	主な意見
歴史文化の特徴について	一般市民を対象にしている計画なので専門的用語の使用は避けた方がよい。高校の教科書のレベルを超えるような用語は使用しないか、説明を付けるようにすると良い。
	「寺社」と「社寺」が混在しているので、統一すること。教科書では、「寺社」とするのが一般的である。
	「京郊」という用語は、歴史の分野では重要なキーワードの一つだが、一般的に定着している用語ではないと思う。
文化財の保存・活用の課題と方針について	「観光への活用」という表現は、避けた方がよいと思う。観光が主で、文化財は従という印象がある。観光との共存、共生など、観光と文化財が並列になるような表現について検討していただきたい。
	「伝える」といことも重要なキーワードだと思う。この辺りも加味して検討いただければと思う。
	「めぐり栄える竹とタケノコ」の箇所は、違和感がある。確かに竹が根を張り巡らせるイメージは分かるが、「しげり栄える」などの対案も含めて、考えていただければと思う。
	長岡京をイメージできるような掲示板を設置して貰えればと思う
文化財保存・活用の措置について	文化財を守りつつ、多くの人に見てもらえる機会を作れないかと思う
	財源の箇所について、現状の制度で財源が確保できるかを含めて整理されたと思うが、もう少し整理が必要な部分もあると感じた。引き続き精査をお願いしたい
	「6 近現代文化財の把握調査」について、後期から取組を始めることになっているが、近現代の遺産の中には、急速に失われつつあるものが多いので、予備調査でもよいので、早期に取り組んでほしい。
	大学生や高校生を、文化財の調査や研究にどう組み込むかということも考えてほしい。
	主な取組主体は行政が多いが、取組項目で民間の力を借りる部分があってもよいのではないと思う。